

横尾忠則さんに名誉市民称号を贈呈

—ふるさと西脇の芸術文化の振興に貢献—

6月27日にアピカホールで、西脇市出身の世界的美術家、横尾忠則さんへの名誉市民称号贈呈式を開催しました。市がこの称号をお贈りするのには、昭和62年（1987年）の制度創設以来、初めてのことで、名誉市民は、西脇市にゆかりの深い方で学術技芸の進歩や社会文化の発展に貢献し、功績が顕著な方にお贈りすることとしています（西脇市名誉市民条例）。

横尾さんの国内外での活躍はもとより、芸術活動を通じてふるさと西脇の芸術文化の振興に貢献を続けてこられた功績をたたえ、今回、名誉市民章を贈呈することになりました。



受章の喜びを語る横尾忠則さん（6月27日、アピカホールにて）

横尾忠則さんは、昭和59年（1984年）にオープンした西脇市岡之山美術館での56回に及ぶ企画展、4回の公開制作、25回の公開講座の開催、JR加古川線のラッピング電車を手がけるなど、ふるさと西脇の芸術文化の振興に大きく貢献くださいました。

贈呈式当日は、兵庫県知事や関係者、市民、横尾さんの同級生ら約180人が駆けつけて受章を祝福。横尾さんは次のように喜びを述べられました。

幼少期を過ごした西脇は創造の宝庫

西脇で生まれ育ち、人格が確立していく中で体験し形成されたものを、作品を通して吐き出すことが、僕にとっての創作です。

僕が住んでいたころの西脇は非常に景気がよく、そのイメージを求めて帰って来ていました。しかし、記憶にある町はファンタジーで、現実には存在せず、西脇はどんどん変化しています。これも発展

のプロセスで、変わることも大切。僕の創作にも関わることあり、過去に對する哀愁を断ち切って、描き続けたいと思います。

今後さまざまな創作活動が西脇を起点に行われる予感があります。特に、幼児期のいろいろな経験、体験は克明に記憶しており、それが僕の「創造の宝庫」と考えています。新しいものを未来に求める必要はなく、自分の過去、西脇の過去、日本の過去、そういった歴史を探ることと未来が開かれていく気がしています。過去は僕にとっては未来。ですから、今しばらく僕は過去を見て創作していくことになりました。

西脇は、僕自身を生んでくれ、育んでくれた場所です。今後ともお付き合い合いたいと思います。



顕彰状と名誉市民章



上)「Y字路」シリーズを描くきっかけとなった模型店。横尾さんの通学路にあったが、当時は三叉路になっていたことを意識したことはなかったという。「新しい西脇」を発見し哀愁を断ち切った場所でもある。



左) 暗夜光路N市-I



上) 横尾さんがデザインしたラッピング電車。現在は4台すべてが運行を終えている。写真は左から「銀河の旅」「走れY字路」

右) 岡之山美術館での公開制作。マスコミをはじめ多くの方が西脇に集まった。



横尾忠則びじゅつ図鑑 YOKOO'S YOKOO ZOO

9月16日(月・祝)まで開催

会場／横尾忠則現代美術館

開館時間／午前10時～午後6時(金・土曜日は午後8時まで)

※入場は閉館時間30分前まで

休館日／月曜日【ただし、7月15日(月・祝)、9月16日(月・祝)は開館、7月16日(火)は休館】

観覧料／一般500円、大学生400円、高校生・65歳以上250円、中学生以下無料

問合せ／横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

☎078-855-5607



上) 大入満員(1994年)
左)「NO Entry」(2000年)
横尾作品に登場する動物にスポットを当て、油彩やポスター、版画など約70点を展示